

パラスタス 大斎第2第3第4のスポタ聖体礼儀（死者のための）

聖體禮儀に本調の眞福詞、六句に。聖入の後に讃詞、

トロバリ

使徒、^{ちめい}致命者、^{よげんしゃ}預言者、^{せいせい}成聖者、
^{こくしょうしゃ}克肖者及び ^{ぎじん}諸義人、善く戦いを終えて信を守りしものよ、
いのる、^{じんじ}仁慈なる救世主の前に勇みを保つものとして、
かれに ^{たましい}我等の霊の救われんことを祈りたまへ。
主よ、仁慈なるによりて、爾の^{しよぼく}諸僕を記おくして、
其の^{ざいせい}在^{せい}世の^じ時に行いし ^{しよざい}諸罪を ^{ゆる}赦し たまへ。
罪なき者なければなり、
唯爾は罪なし、且つ世を^か逝りし^さ者に^{あんそく}安息を賜うを^よ能くす。

光榮は父と子と聖神に帰す

ハリストスよ、なんじが 諸僕のたましいを 諸聖人とともに、
やまいも かなしみも なげきもなく、 おわりなき
いのちのあるところに やすんぜしめ たまえ。

今も何時も世世にアミン（8調、常に福と同じ）
 生神女、聘女ならぬ聘女、／信者の救いよ、
 我等は爾を垣^か墻^きと港、／及び爾が生みし神の前に
 善く納れらるる／祈禱者として有^{たも}つ。

提綱、6調 <使徒経は「スポタ」の項を見よ。>P110
 彼等の靈は福に居らん。
 句、主よ爾に我が靈を挙ぐ。吾が神よ、爾を恃む我に世々に愧^{はじ}なからしめよ



使徒経：第2土曜：エウレイ309端と270端、第3土曜日エウレイ325端と270端、第4土曜
 日313端と163端

「ア ril イヤ」8調



(句)主よ、爾が選^ひ近^づけし者は福なり、彼等の記憶は世世に在らん」。

福音経はマルコ六端、又イオアン十六端。

領聖詞、「義人よ、主の爲に喜^べ」。又、「主よ、爾が選^ひ近^づけし者は福なり」。

